



岩江中だより

第 24 号
 発行日：平成 29 年 11 月 1 日
 発行：三春町立岩江中学校
 電話：0247-62-8290
 F A X：0247-62-8380
 E-mail: iwae-j@fcs.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに、たくましく』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

○ポラリス保健看護学院生 看護実習 10月31日(火)

ポラリス保健看護学院生2名が看護実習で本校に実習に来ました。卒業のために、外での実習が必要で、将来、養護教諭として働きたいと目標をもち、本校への研修を希望したそうです。本校の教育に触れ、また、生徒たちとの交流などを通して、将来の進路に結びつく研修になったと思います。



○三春町小・中学校音楽祭 11月1日(水)

三春町小・中学校音楽祭が三春交流館「まほら」で行われ、三春町の小・中学校8校が参加して合唱や合奏を披露しました。本校からは、特設合唱部が参加し、「校歌」「願いごとの持ち腐れ」「群青」を発表し、聴いている人たちに感動を与えてくれました。感動して涙を流す人もいたほど、とても素晴らしい合唱でした。



特設合唱部の活動は、この音楽祭で最後になりましたが、これまでよく頑張りました。たくさんの方の感動をありがとうございました。

○全校ボランティアに向けて ～全校集会「校長講話」から～

「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見える
 「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える



これは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の後に、テレビのCMで繰り返し流れたフレーズです。

その映像には、電車の中で座席に座っている男子学生が、電車に乗ってきたおなかの大きな女性に席を譲ろうかどうか迷う場面があり、結局、違う席に座っていた若い女性が席を譲りました。そして、次の場面では、長い階段を大変そうにあがっていくおばあさんを見たその男子学生が、一度通り過ぎた後に戻ってきて、そのおばあさんに手を貸す姿がありました。

このフレーズは、詩人である宮澤章二さんの「行為の意味」という詩の一節です。この詩の最後は、「あたたかい心があたたかい行為になり、やさしい思いがやさしい行為になるとき『心』も『思い』も初めて美しく生きる。それは人が人として生きることだ。」と締めくくられています。

「温かい心・やさしい心を勇気を出して、積極的に行動に表していこう。」という意味だと思います。

私たちは、親子や学校、地域の人々など、多くのつながりの中で生きています。そのような中で、胸の中にある「心」や「思い」をもって、「人のために何かをしたい」という気持ちを行動に表したとき、それは、ささやかな行為であっても相手の心に響きます。

東日本大震災では、被災地で多くの大人や子どもが力を出し合い、困難に立ち向かいました。また、全国から多くのボランティアが被災地へ集まり活動してくれました。皆で、支え合って生きていこうという姿が見られました。

今、私たちは、困難を乗り越え復興へと向かっていますが、どんなときでも、このような「温かい心」を行動にうつすことが大切です。自分ができる「ちょっとしたこと」でいいのです。「おはよう、こんにちは」の挨拶、「ありがとう」の感謝の言葉、トイレのスリッパをそろえること、ゴミを拾うこと、困っている人に声をかけること、それらはすべて、「心」があるからこそできる行為です。

明日、11月2日には、ボランティア活動があります。是非、皆さんの「温かい心」を行動にうつしてください。皆さんの心が豊かになり、人として美しく生きることに繋がることを期待しています。